

あかこびと

2019年クリスマス号(100号) 2019.12発行

日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会

〒2360046 横浜市金沢区釜利谷西3-36-20

牧師 森島牧人・森島 恵 電話 045-783-5475

e-mail: church.kanazawabunko@gmail.com

[http:// kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp](http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp)

「いつまでですか…」 詩編第13編 牧師 森島 牧人

「いつまで」という問いでこの短い詩は始められ、それも4回も繰り返して用いられています。詩人は、「わたしの魂は思い煩い」、「嘆きが心を去らない」と訴えます。その具体的な事柄はここからは分かりませんが、詩人は不安とおそれのために彼の人生から生きる喜びも希望も見出すことが出来なくなっており、昼も夜も悲しみにうちひしがれているのです。

そこで詩人は、「いつまで、敵はわたしに向かって誇るのか」と叫びます。彼は神に仕え依り頼み従って生きてきたのに、一向にそれに相応しい結果がでてこないばかりか、むしろ現実には、神に敵対していると思われる者が繁栄し栄誉を誇っているからです。「神は御顔を隠されている」と、詩人は抗議し、切願するのです。

注目したいのは、この詩は出口のない深い淵からの人の叫びですが、それが神に向けられているところです。つまり、この絶望的な状況の中にあっても彼の神が「わたしの神」であり続けている点です。この詩人は、神に見捨てら

れたという状況の中でただ「いつまでですか」という問いを持って立ちつくしているように見えます。しかし、実は、彼がそう叫んだ瞬間、彼は深い淵からの出口を発見したのです。ゆえに、彼は彼の嘆き、呟き、抗議をそこに持って行くのです。そこにおいてこそ、苦しみと絶望のその詩が喜びの歌に変えられ、「あなたの慈しみに依り頼みます」との神を賛美する言葉に生まれ変わり、彼がどんな困難にも立ち向かう勇気を約束されるからです。

クリスマスは、神の出来事です。そして、その出来事は、また私たちの喜びです。主なる神が共にいて下さり、私たちと共に生きて下さるとの約束が、成就した日なのです。共に、「ハレルヤ」と高らかに歌いましょう。



目 次	頁
いつまでですか…	森島牧人牧師 1
自分史：信仰への歩み	石川万奈美 2
バプテスマ	白根義輝 3
新しく教会員になられた方に、最近教会に来られた方に	梅谷興三 4
懐かしい母のこと	西山律子 5
森島文庫のこと	羽入田 毅 6
タイの神学生	島田正敏 7
私の願い	根岸千恵子 8
聖 夜	羽入田悦子 8
「ゆるし」の難しさ	白井豊子 9
育児を通して思うこと	浅輪一郎 10
心の成長を願って	犬塚志朗 11
活動報告	12～

自分史：信仰への歩み 石川万奈美

私は東京大田区池上にて貿易商を自営する父とその手伝いをする母の一人娘として生まれました。私には友達が沢山いましたが、途中で馬込へ引っ越して越境通学することになったためにバス通学が始まりました。帰宅すると厳しかった父に勉強するように言われ、ゆっくりする自由時間も無く、成績が悪いと教科書や参考書も捨てられ、いつもオドオドしていました。小学校から中学時代は子どもながらに一番辛かった頃です。その後、地元の中学に越境入学しました。学業優先でクラブ活動は父から一切禁止されました。高校生時代は、まじめに勉強しようと図書館によく通いました。心理学や哲学書などを好んでよく読みました。短大生の頃からは、少し自由な時間を上手く作れるようになりました。この頃に中学校教諭英語科2級を取得しました。そして卒業後製薬会社に入社し、先輩や後輩、同僚とも交流が出来て、自由になる時

間やお金も出来、やっとやりたい事を大いに楽しみました。

入社2年目で結婚し、転勤で水戸に引っ越しました。結婚した年に母親に癌が見つかり、母は手術を受けました。わたしが長女を出産した頃、母に癌の転移がわかり再度入院しましたが7ヶ月後に他界しました。そして次女を出産した頃、突然病院から電話で父が救急で運ばれたと連絡を受け、水戸より駆けつけました。しかし翌日早朝に亡くなってしまいました。心筋梗塞でした。その後、横浜へ転勤して戻ってきました。

横浜では介護福祉士資格を取得し、デイサービスの管理者として働き出しました。毎日毎日、全てを終え帰宅するのが夜半で、睡眠時間も3時間という時が通常になり、次第に心も疲れ果て、鬱状態に入っていました。しかし10年後には、児童発達支援管理責任者の資格を取得し、発達障がい児の療育・訓

練・学習計画などに取り組みました。また、地域ケアプラザの地域交流コーディネーターとしても働きました。時間に追われ、期日に追われていく中で、私自身も鬱状態から次第に家から出ることが怖いと感じるようになり、人と会い、友だちに会う、、、ということが苦痛になり、外出が出来なくなりました。その頃から、自分自身の今後を考えるようになり、リビングウィル(献体)を申し出てエンディングノートにも書き残しました。

幼い頃に日曜学校に通っていた教会があります。短大時代に通った教会で、自分をあたたく受け入れて下さる空間をよく思い出し、再び教会に通いたいと常々思っていました。教会に行く迄は、家を出てから不安や不穏に襲われる時もありますが、教会に来てしまうと安心感と喜びの気持で帰る時が多くな

りました。そして、金沢文庫キリスト教会にいつも来たいという気持ちになり、バプテスマを受けてキリスト者として生きていきたいと思い始めました。わたしは2019年10月13日にバプテスマを受けました。私の心の中は安堵感と喜びで満たされた日々に変えられました。



「バプテスマ」

白根 義輝

今年の10月13日に、石川さんがバプテスマを受けられました。バプテスマ式に立ち会う度、自分がバプテスマを受けた時の感動を思い出します。

それまでの人生をつぶさに振り返り、これからの生き方を考えた時、罪を告白し神様の赦しを求めずにはられませんでした。そして、1978年12月24日、クリスマス礼拝で父からバプテスマを受けました。

神様から遠く離れ自分勝手な生活をしていた私が、新しく生きることができる、大きな喜びに満たされ感謝に溢れた毎日でした。その後、教会学校のお手伝いを始め、イエス様のことを伝える喜びに満たされました。日曜日だけでなく、毎日でもイエス様のお話をしたいという夢が与えられました。そこで、両親に相談したところ、クリスチャンスクールの教師になること

を勧められました。大船の京浜女子大学で夜間開いていた聴講生課程に入学しました。

私は当時、設計事務所に所属しており、横須賀ベースで防衛施設局が建設していた米軍家族住宅の施工管理を担当していました。大学の平常講義は午後5時50分から7時50分でしたので、職場を午後4時に出なければなりません。仕事は続けられませんでしたので、1年間は無収入を覚悟しました。所長に伝えると、何と午後4時退勤の許可を戴くことができました。竣工検査の前は、必要な書類や図面を準備しなければなりませんので、授業が終わると横須賀ベースに飛んで帰りました。終電の時刻前には到底終わらず、床に図面を並べて寝たのもいい思い出です。

卒業が近づき、クリスチャンスクールに履歴書を提出し面接を受けましたが、社会科専科教

師としての採用ということでしたので、お断りしました。2月に入り、4月から教職に就くことを半ばあきらめ始めていた時、父から、成美学園小学校（現横浜英和小）に教員の空きが出たという連絡がありました。

早速、書類を用意し面接に赴きました。聖書の先生が突然退職することになったので、聖書科の教師になって欲しいとのことでした。決めかねて母親に相談したところ、御給料をもらって聖書の勉強ができるなんて、こんな素晴らしいことはないと言われ、確かにそのとおりだと納得し奉職しました。その年度一杯で定年を迎える先生がいらっしやったので、1年後、晴れて5年生の担任になることができました。65歳で学校を去るまで、朝の教員礼拝や学級礼拝、礼拝堂での礼拝と毎日、聖書を開かない日はありませんでした。神様の祝福に満たされた37年間でした。

あの日バプテスマを受けた時から、その前に関東学院六浦小学校に入学してから、いや、牧師の家庭に生まれた時から、きっと生まれる前から、神様が私の内臓を造り、母の胎内に私を組み立ててくださった時から、ずっと神様の祝福を戴いていたと考えざるを得ません。

バプテスマ式に立ち会い、自分の信仰生活を振り返り、神様の導きと恵みに改めて感謝いたしました。



新しく教会員になられた方に、最近教会に来られた方に

梅谷興三

今年はお二人の方がバプテスマをお受けになりました。稲垣柚奈さんと石川万奈美さんです。バプテスマおめでとうございます。また最近教会に新しい人たちが来られるようになりましたねえ、といわれます。とてもうれしいことです。

ところで、歴史をふりかえると、文庫教会（1957年～）は白根牧師が自宅を開放されて以来半世紀ばかり経ちますが、キリスト教の流れには数千年の背景があります。プロテスタントはマルチン・ルターの宗教改革以来聖書が中心といわれています。原典のヘブライ語やギリシャ語から苦労されて現在の日本語の聖書ができたといわれています。それでも2000年以上昔の、日本からはるか西方の民族の信仰の書であるだけに現代の私どもが理解するのは容易

ではありません。だがそれを乗り越えた先輩たちがいます。明治維新の結果開国政策がとられ、多くの宣教師が来て伝道を始め、教会ができ、多くの知識人もその影響を受けたといわれています。有名なのは札幌農学校です。この学校の卒業生には新渡戸稲造や内村鑑三がいました。新渡戸稲造はアメリカ人の妻を迎え、「私はアメリカと日本の架け橋となる」といいました。内村鑑三は札幌で教会を建てようとして宣教師に融資を申し込んだところメソジスト派の教会であることを条件にされたので断り、自分たちで教会を建て、独立教会と称しました。後に東大総長を務めた南原繁や矢内原忠雄といった大戦後の指導者を生みます。

聖書の中の新約聖書、中でもマタイからマルコ、ルカの福音書を中心にイエスの言葉、行

動を読むことが大事だと考えます。

私は戦後の荒廃したなか郷里の兵庫県明石市にある人丸教会で洗礼を受けました。明石中学の3年生だったと思います。当時は敗戦直後であり、英語教育も盛んでした。そこで英文法を担当されたのはクリスチャンの校長先生でした。夏休みには特別授業として、世界的文学の一つといわれるシェイクスピア戯曲作品を分かり易くまとめられた Lam の Tales from Shakespeare という作品を学びました。それは楽しい思い出です。

キリスト教の世界は狭いようで広いのです。教会の慣習はやや形式的なところがあって、それはそれなりに意味があり、初めての方には馴染めないかもしれません。継続は力なりといいます。持続的な教会生活のなかからきっと得るものがあると思います。若い人の知恵をどんど

ん出してください。教会から離れず、いつか新しい道を切り開いてください。

最後に有名な小説「氷点」や聖書の入門書の著者であり、13年も病床にあって洗礼を受けた三浦綾子の言葉を紹介します。

(世には、聖書には全く無関心で生を終える人も少なくない。だがどんな人であっても、一生に一度や二度、呻くような悲しみや苦しみにあうことがあるのではないか。そうしたときに聖書を知っていたならば、その苦しみや悲しみは、単なる苦しみや悲しみに終わらず、もっと別の意味をもつかもしれない)



懐かしい母のこと 西山律子

2015年2月母は、98歳で天寿を全うしました。編み物、洋裁、和裁が大好きで、私たちの洋服や靴下の穴の繕いなど、早朝から夜遅くまで、眠る暇があるのかなと思うほど、働くことが大好きな母でした。兄、弟、三姉妹、計7人の兄弟姉妹の私たちの食事、身の回りのこと、畑のこと、家中のことを一人で。父はおっとりとした人で、休日は尺八を吹いたり、マンドリンを弾いたりして家のことは母任せでした。

暮れにはお餅つきをしました。前日に小豆を煮て、それを水に晒して、こし餡(あん)を作り、お月見団子のように山盛りに作ります。

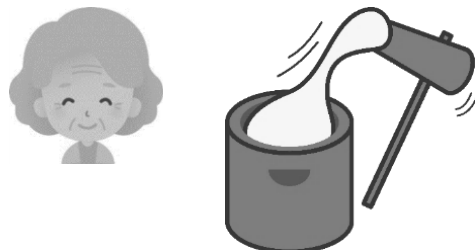
もち米をセイロで蒸して父と母が「よいしょ」「はい」と餅つきが始まります。父が杵を

持ち上げると母は臼の中のもち米を、手に水をつけ上手にひっくり返します。だんだんもち米の粒と粒がくっついて、餅状態になってゆきます。まとまった餅を両手で、もちとり粉のまぶしてある大きなテーブルの上によいしょ、と置きます。熱々のうちに母は器用にポンポンと丸く千切って分けてゆきます。私たちは一つ一つを丸めて広げて餡(あん)を入れ、丸いあんこ餅にします。兄弟姉妹全員参加の行事です。三回目、四回目は20センチくらいの黒豆入りのなまこ餅にします。当日の夜も昼も大好きなあんこ餅をお腹いっぱい皆で、おいしいね、おいしいね、といていたいたのを今でも思い出します。母は人を笑わせるのが上手で、皆で

よく笑ったものです。また、花が大好きで庭のたくさんの花の中から朝学校へ行くとき持たせてくれました。それから、学校から帰った私の話をよく聞いてくれました。あんなに忙しい母がどう時間を作り出して一人ひとりに接してくれたのか不思議です。

神さまがいつも共にいてくださることがよく分かります、全知全能の主ですから、私たち一人ひとりのことをすべてご存じで、何が今必要なのか？悲しいのか？心が痛んで苦しいのか？それとも喜びで一杯なのか？わかって下さる主。いつも主にお祈りし、たくさんの主の

恵みを数えながら、感謝でいっぱいになります。主が私に何をせよと命じられておられるのか？主からいただいたこの朝の生命を感謝して、主が喜ばれる一日を歩むことができますように。主よ、導いてください。共にいてください。ハレルヤ!!



森島文庫のこと 羽入田 毅

2年前に私たちの金沢文庫キリスト教会に書棚3本350冊ほどのキリスト教関連の書籍が置かれて、教会員の自由な閲覧に供されています。この書籍は現在当教会の森島牧人・恵牧師から寄贈されたものです。中には森島蔵書の角印が押されているものもあり、「森島文庫」と勝手に名付けて利用させていただいています。70年くらい前から図書館になじんできた老輩にとって本に囲まれているのは何とも豊かな気分になれるものです。

今は、森島文庫のウィリアム・バークレーの聖書注解シリーズ全17巻にとりかかっています。視力・気力ともに衰えて読書のスピードは蝸牛にも遅れをとりますが、何とか食らいついています。現在はマルコ福音書に半年かけ

ています。この注解書は大島良雄先生の1968年の訳によるものです。現在100歳になられる大島先生はご存じの方も多いと思いますが私は数年前に関東学院教会追浜チャペルで説教を聞いたことがあります。訳者の顔が見えるのもその内容に親しみを覚えるものです。ともあれ、このペースで全17巻を読み終えるまで馬齢を重ねさせて頂ければ……。



森島文庫



タイの神学生 島田正敏

私たちが支援している子ども寮は、タイのチェンマイから車で6時間のティワタ村にあります。カレンバプテスト同盟のダウ牧師が25年前に建てました。28名から始まりましたが、現在130名が共同生活をしています。昔はほとんどの子どもたちが、中学を卒業すると村に帰って農業をしていました。しかしこの頃は高校、専門学校、大学に進学する子供たちも現れてきました。その中にA君とB君がいます。彼らはティワタ寮から高校に通い、卒業してチェンマイにあるシロアム神学校と一緒に進学しました。牧師を目指して勉強していました。英語科のコースで学んでいました。ティワタ出身の学生は6名ほどいます。私は、8月と12月にティワタに行き、帰国前に寮出身の子供たちと毎回、食事会をしています。8月の時は十数名が集まりますが、年末はほとんどの学生が、村に帰った後なので神学生だけが来ます。

2018年12月23日の食事会には6名の学生が来ました。食事をしていると隣の席にアメリカ人の家族がいました。当日は、その息子さんの誕生日でした。神学生たちはお祝いの歌をアカペラで歌いました。カレン語の歌でした。彼らは毎日1時間、授業以外にアカペラで讃美歌を練習させられているそうです。その合唱はプロ級です。アメリカ人のご家族は、とても驚き、感動していました。お父様は「グレート ジョブ」と言っていました。

数日後にA君とB君は、村に帰るために二人乗りをしてバイクで帰路につきました。その途中で事故が起きました。B君は亡くなりました。A君は大変落ち込んでしまいました。自分を責めたりもしたそうです。すべてのことに意欲をなくしました。授業にも支障をきたすようになりました。

2019年8月、第18回タイ訪問団がティワタ村に行き、最終日に食事会をチェンマイで開きました。そこにA君も来ました。最初は参加する気にならなかったのですが、友達に誘われ参加しました。以前から知っている日本人や子どもたちと会い、楽しいひと時を過ごしました。私たちに会えて良かったと言っていました。その後、彼は前向きに人生を歩み始めました。一緒に食事をしただけですが、彼に生きる勇気を与えることができました。

彼の夢である牧師への道が、神様の恵みによって実現できますように祈ります。



私の願い 根岸千恵子

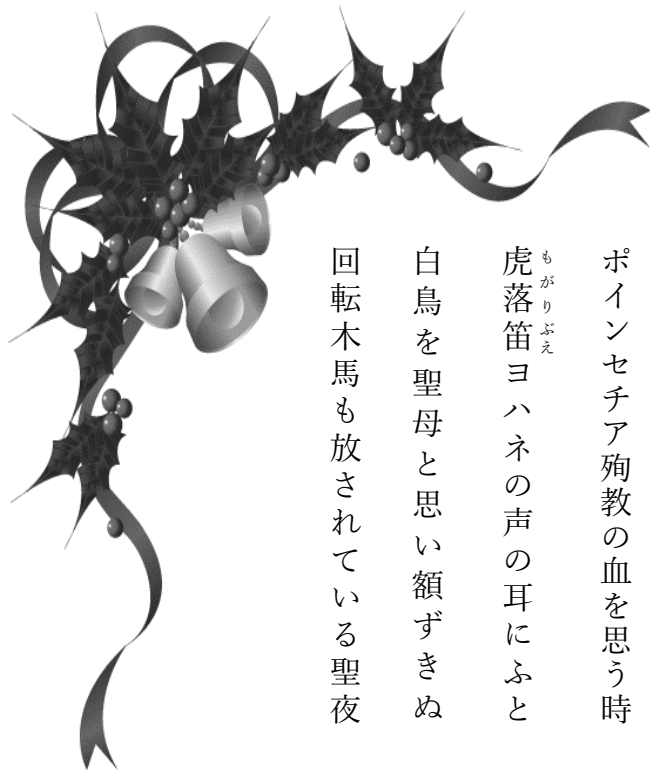
「望み得ないときにもなお望みを抱き、希望を失っても天に希望を向ける。これがキリスト教の信仰である。神と対話する時、聖霊が働くのは人間のみである」2014年2月、白根牧師の礼拝説教から。

「…… 行く川の流れは絶えずして、しかも元の所に戻らぬ。神を畏れ、その戒めを守れ。……」2014年1月、Dr.中山の礼拝時のメッセージから。

心の中に貧しさを感じているから私は教会に来ているのですが、これはイエス様だけが解決して下さると思います。頭だけで納得するのではなく霊で信じる事。教会は天への鍵であるといわれます。キリストの軛は聖書のことばである。私はこの仰せを心に収めています。あなたに対して過ちのないように、キリストの復活を信じてこの信仰を維持したいと祈りながら、私は罪多き日々を過ごしているのです。

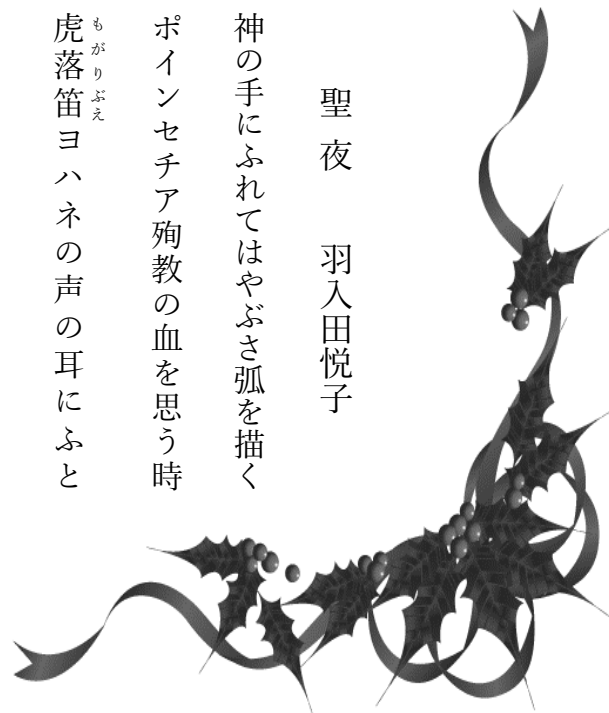
聖書の中のイエス様が行われた数々の奇跡を思う時、悪魔がささやき、疑心が息吹き始めるのです。しかし全能の神に不可能はない、とイエス様は諭してくださり私は安心するのです。

混沌とする社会の情勢、速いスピードで変化する今世の世界では一人では生きていけない孤独な若者、老人の自殺が増えています。神の家である教会に招かれて慰められるように願っています。教会での兄弟姉妹の温かい優しさに包まれて、希望を持って欲しいのです。祈りながら、主に祝福される教会でありたいと願っています。



聖夜 羽入田悦子

神の手にふれてはやぶさ弧を描く
ポインセチア殉教の血を思う時
もがりぶえ
虎落笛ヨハネの声の耳にふと
白鳥を聖母と思い額ずきぬ
回転木馬も放されている聖夜



最近、ある出来事がきっかけで、自分の歩んできた道が走馬灯のように、次々と思い起こされてきて、心揺れる日々を過ごしてきた。

これは過去を受けとめられない自分がいるからだと思った。そして「ゆるし」の難しさにとどまっているからだと思えた。あえて、この解決のために過去の見直しに取り組もうと試みた。取り組まない限り、被害を受けたことだけを強く、何度でも思い起こして前には進めないのだ。しかも「……された」「……もしてもらえなかった」と語る時、主権を相手に譲り渡してしまっているのだ。自分自身を主人公にしていけないのだ。

私は残念ながら、子供らが低学年の時に夫を喪失し、家庭を共に築き上げることができなかった。どうして、こういう事態になったのかと、振り返った。

お互いに育つ環境が大きく違い、そこで培われる心のあり方も大きく異なる。それが融和されていけばいいのだが、お互いに譲らず平行線で、闘いだったように思う。

長男は言った。

「自己主張をするのはいやだ」

と。負の思いを抱かせてしまった。

夫が家を出た時、娘は三年生になったばかりで8歳だった。その時、娘はこういった。

「ママは、本当の優しさではなく、パパの仕事にひかれたのでは、ないの」

と。子供の直観でズバリと見抜いているせりふに驚いたものだ。

私は自分自身が育つ時、家族が集まって食事をする状態がとても辛かった。そんな家庭の中で、自分の感覚や感情を表現せず、閉じた貝のように蓋をしてしまい、意志・思考の領域だけを増大させてきたように思う。

「～すべき」という心の方向に自分を持って

いき、私は正しいという意地をはった生き方をしてきたように思う。

学習で頑張り抜き、教員になると決心したのも4年生の頃だった。

意地を強固にすればするほど、目的志向で直進することはできても、自分の本当の心もつかめず、他者の心もつかめなかったように思う。しかも正しさの錯覚によって、他者にあやまることもできなかったように思う。息子たちから「ママは、あやまらない」し、「ほめない」と言われたが、まさに私のあり方を指摘していたと言える。

私に言っても分かってはもらえないと思わせ、苛立ちや諦めを夫や子供たちにも与えてきてしまったかもしれない。だから夫は暴力の形で訴えたのかもしれない。

思いがけない夫の喪失に動揺し、見捨てられ不安に苛まれた時、感覚・感情の爆発を通して、やっと自分の気持ちをつかむことができた。ふだんから意地を張らず、自分の感覚・感情に正直になることができていたなら、失ってはいけないと思い「ごめんなさい」と自分の方から素直に言えただろうと思う。

こうして、自分の弱さをじっくりと見つめた時、相手から受けた嫌な事も、私がひきおこさせる一因になっていたのではと思うに至った。

これまで私は心を頑なにし、見えず、聞こえずの状態に自分をおいてきたのかもしれない。その状態を明らかにし、打ち砕くために様々な試練が与えられたのかもしれない。しかし堪え得ない試練ではないように、常に神は助け手を遣わしてくださっていたことを思う。渋柿がアルコールで甘柿に変わる恵みと同じように、試練が出会いによって神の栄光を現すことができるように求められているのかもしれない。

「我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく
我らの罪をも赦したまえ」
この主の祈りが、少しだけ分かったように
思えた。



育児を通して思うこと② シアトル編 浅輪一郎

ニューヨークの次に生活したシアトルには、マイクロソフトや Amazon といった IT 企業の本社が多く、世界各国からソフトウェアエンジニアが集まっていました。その中でもインド人、中国人のエンジニアの数は他国を圧倒していました。その影響で娘の小学校も 60%以上の児童がアジア系で占められていました。アジア系の児童の多くは、教育に熱心な親が多いため、ほぼ毎日塾に通い、結果、テストとなると優秀な成績をおさめていました。アメリカに来ることが出来て、経済的な成功を手にした根拠が、母国で競争を勝ち抜いてきた「勉強」にある訳ですから、たとえ “Tiger Mom” と揶揄されても「勉強」は多くのアジア系の親にとって、一番の関心事でした。一方、エスニックグループにおいて、いわゆる白人系に分類される親は、平日・土日問わず、子どもと一緒にスーパーの入り口でクッキーを売ったり、ボランティア活動をしたり、チームスポーツに参加させたりと、どちらかという「勉強」以外の活動に熱心であるように思われました。そんなある日、白人系の子育てからこのような事を言われました。「あなた達アジア系は本当に優秀だわ。でも、私たちは、あなた達と同じことを目指し

ていないから。私たちは、優秀なあなた達を『使うこと』を目指しているから。」なんともショッキングな発言でしたが、そう言われてみると、グローバル企業と呼ばれるような会社でさえも、経営陣となると確かに白人系は多いようでした。なるほど、子どもの頃から様々な人々と触れ合わせ、コミュニケーション能力を高め、マネジメント能力を養わせるという、そのママ友が教えてくれた教育方針は、一見すると理に叶っているように思えました。しかし、なんとなく腑に落ちないということも事実でした。つまり、自分や自分の子どもの利益しか考えない限りにおいては、「アジア系」の教育であっても「白人系」の教育であっても、結局は、同じ穴のムジナではないかということです。

では、それぞれが目指す教育を超える教育というものは、果たしてないのでしょうか。実は、私はそのヒントを横浜にきてから見い出したような気がしているのです。そのことは、次回の「あかしびと」で、お伝えしようと思います。(日本バプテスト神学校 実習生)



怒りをおそくする者は英知を増し、気の短い者は愚かさを増す。

穏やかな心は、からだのいのち。激しい思いは骨をむしばむ。

(箴言 14：29～30)

「早くしてよ、もたもたしないでっ！みんな待ってんだからっ！」と、中年の女性が背後から私に怒りの声を発してきました。私が ATM でお金を下ろしている最中のことです。私は無視して、間違えをしないようにと、さらにゆっくり、ゆっくり作業を進めました。帰り際に「もう宜しいのですか？」と若い女性から温かい声が掛かりました。その女性には「お待たせしました」と、声をかけ、その背後にいる怒りで急かせる中年の女性には「煽（あお）りたてないでよっ！ 焦って間違えてしまったらどうするんだっ」と、思わず私は低レベルの怒りを発してしまいました。……あとで、あああ、自分はなんてことしてしまったんだ、と激しく悔やみ、二度とこんな見苦しい態度をくり返すまい、と深く心に刻み込みました。10 数年前のことでした。

「邪魔だ、どかせろよっ！」つい最近のバスの車内でのことです。邪魔にならないようにと重い荷物を自分の体に押し付けて気をつけていた私に、ある老人が下車する時怒号を浴びせてきました。今回は、その横柄な老醜漂う行為に怒りを感じず、彼のご家族の労苦を押し量りました。

私は反省しなければなりません。悪態をつく人に対して瞬時に「神様のお導きと祝福を!!」と祈ってあげられる心の余裕を持つ自分ではありません。

「あのう…、ワイシャツが背広からはみ出していますう…」と、前方を歩いている 60 代半ばの紳士を追いかけて私は声をかけましたら

「あっ、有難うございます」とのご返事。服装を正して、先を歩む私を追いかけてきて、「先ほどは本当に有難うございました。今朝同じことをうちのカミさんから注意されてきたばかりです」と、再度丁寧なご挨拶。

私にはこのような礼儀正しい人、品格のある人、心に余裕を持っている人（老若男女）に接する機会が多くなりました。お互いに見知らぬ同士でも、ニコッと微笑みを交わしてすれ違う人、「こんにちは！」と声をかけてくる人もいます。トンネル内の極狭い歩道では、ガードレールぎりぎりに体を寄せてすれ違う人を待つと、「すみません、お待たせをして！」と、駆け足で満面微笑みを湛えて声をかけてくる女性とか、「どうも！」と軽く会釈して通る男性とかがほとんどです。が、中には極少数ですが、むっつり、苦虫を噛み潰したような表情で、通り過ぎる人もいます。そおっとその人の顔をちらりと覗き見して、「この人、社会で円滑にやっていくの大変だろうな！」と瞬時に裁く上から目線の悪い癖。このような人に対して「神様のお導き、御加護と祝福がありますように」と祈る私になりたいと思います。が、その域に達するにはあと一歩です。



2019年度前期懇談会まとめ

日時 9月29日(日) 12:50~14:00

資料: 2019年度前期懇談会 (転記)

1. ブレイン・ストーミング(KJ法)でのまとめ

- (1) 良い点(強み) ①アットホーム(明るい)な環境
②教会内の団結力が強い ③良好な信頼関係がある
④音楽的企画が多い ⑤牧師二名体制
- (2) 悪い点(弱み) ①高齢化(牧師を含め)
②若者・子育て世代が少ない(次世代への継続が不十分)
③女性会への負担が大きい(男性会員の活動不足)
④教会員数不足(50名欲しい、各世代および男女比等のバランス)

2. 後期懇談会への課題

◎教会の中期(5年)計画

- (1) 教会形成について ①信徒教育の強化 ②教会員の増強
③男性会員の活発化
④教会学校の強化
⑤礼拝二部制(または子どもの教会形成)
- (2) 牧師招聘について ①招聘委員会立ち上げ(2019年度)
②招聘のための調査
③招聘作業 ④牧師館検討 ⑤謝儀準備金積立
- (3) 2019年度後期懇談会について

日程: 2020年2月9日(日) 礼拝後

内容: 金沢文庫キリスト教会中期事業計画について

話し合いの内容:

上記のまとめ、課題を踏まえて、今後の責任役員会での検討・審議を経て後期懇談会に臨む



森島牧人牧師から、前期教会懇談会のまとめ、および後期に向かっての課題について伺い学びました。

今年度9月以降の「子育て講演会」講師：大賀たえ子先生

大賀 野のはなカウンセリングセンター センター長
筑波大学大学院心理・発達相談室カウンセラー

- ・第5回 日時：2019年9月12日（木）10時30分～12時
テーマ：「お父さんがお母さんの気持ちも分かる子育てを」
- ・第6回 日時：2019年11月14日（木）10時30分～12時
テーマ：「子どものやる気を育てるために必要なこと」
- ・第7回 日時：2020年1月16日（木）10時30分～12時
テーマ：「IT社会の今、子どもの脳にいちばん良い子育て」

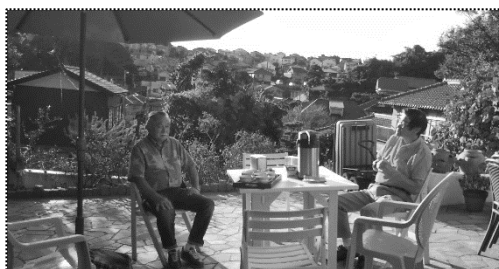


熱心に大賀先生の講演に耳を傾ける参加者。講演後には、Church Caféで、先生と懇談する時もあります。

鎌倉での愛餐会（バーベキューパーティー）10月9日 稲村ヶ崎の中村家で



賛美：21-57「ガリラヤの風」聖書：詩編第100編



台風19号直撃三日
前、自然豊かな中村家の庭で、秋晴れの陽射しを浴びて、のんびりと語りました。



音楽礼拝(教会エルピス) 第5主日礼拝



シニア健康コーラス、毎月最終水曜日



料理教室(韓国料理)9月22日



綺麗にお皿に盛りつけました

教会の家族で協力して、韓国海苔巻を作り、みんなで美味しく頂きました。
講師：ジャン・スンワン姉（実習神学生夫人）

創立44年記念礼拝 10月13日 説教：森島 牧人 牧師 トーンチャイム演奏、バプテスマ、愛餐会



バプテスマと愛餐会
 主が共にいて下さる時、その食卓は喜びの交わりの場となるのです。一人一人が自分のバプテスマの時の思い、証しをしました。素晴らしく、祝福されたひとときでした。

宗教改革記念礼拝と修養会 10月27日 (日)

2019年度宗教改革記念礼拝 礼拝後教会修養会

- ・テーマ：(a)「新生に生きる---宗教改革とバプテスト」
- (b)「2020年度金沢文庫キリスト教会の宣教計画について」



パワーポイントを使用して分かりやすい説明、最後にまとめの話し合いの修養会でした

召天者記念礼拝 11月3日 (日)



各ご遺族より召天者の紹介中



こども祝福式 11月10日(日)



集会案内・Church Café 講座の御案内

- 主日礼拝 日曜日 10:30~12:00 (教会学校 9:00~10:00)
 キリスト教入門講座 水曜日 10:30~12:00 テキスト「ブーバーに学ぶ」 齊藤啓一著
 賛美歌を歌おう会 木曜日 10:30~12:00 健康体操、発声練習、賛美歌練習、祈祷会
 聖書研究会 土曜日 13:00~15:00



金沢文庫キリスト教会 クリスマス礼拝の御案内

- ・クリスマス礼拝：12月22日(日) 10:30~12:00
- ・クリスマス祝会：クリスマス礼拝後
- ・教会学校クリスマス礼拝・祝会は合同で行います
- ・クリスマスイブ燭火礼拝：12月24日(火) 15:00~16:30
- ・横浜市金沢区 バプテスト同盟三教会合同キャロリング：
 - 12月22日(日) 詳細は教会のホームページをご覧ください
 - * 追浜駅前 15:30-16:00、金沢八景 16:15-16:45、金沢文庫駅西口 17:00-17:30

You Tube で礼拝を受信する方法

*金沢文庫キリスト教会は、礼拝を YouTube Live で配信しております
 以下の教会ホームページから見る事が出来ます
<http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp/WORSHIP.html>



編集後記 (広報委員会：記 犬塚志朗)

今年度本教会主題聖句「喜びをもって主に仕えよう」(詩 100 編、ヨハネ 15:5)を掲げ、早8カ月が過ぎました。これまで多くの方々のお祈り、ご支援をいただき感謝申し上げます。クリスマス、新年を迎えるにあたり、皆様に豊かな祝福がありますようお祈りいたします。在